



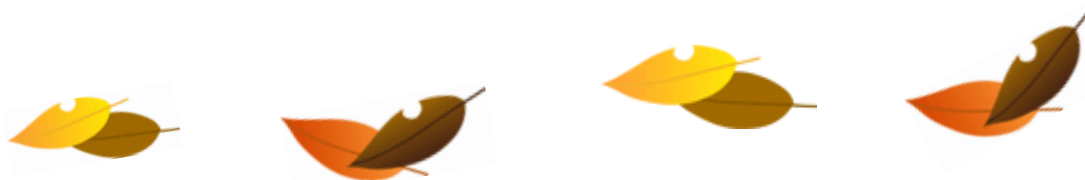
自殺総合対策全国フォーラム

9月10日（月）、「自殺総合対策全国フォーラム」が、全国5カ所（札幌、秋田、東京、京都、福岡）の拠点をネット中継でつないで行なわれ、私たちも京都会場（京都リサーチパーク）に参加しました。ここで、その報告をさせていただきます。

京都会場には近畿各地から、民間9団体や自治体20団体が集まり、ともに情報を共有しました。その中では、先日改定された「自殺総合対策大綱」についてのポイント解説や、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現をめざす決意文が採択されました。こうした情報共有も、単に文書が伝達されるだけではなく、多くの方が会場に集まって交流しながら、しかも各会場がつながることでネットワークの大事さを感じながら、それぞれに思いを伝えあうことができたことは、大きな意味があったと思います。

ネットワークができたことの重要性を感じるとともに、それが形式的なネットワークで終わらないように、支援を必要としている人が適切につながるために有効な取り組みが行なわれることを願っています。

（運営委員 武田慶之）



京都市連絡協議会に参加しました。

■本年度より連絡協議会に参加

9月10日（月）、「京都市自殺総合対策連絡協議会」が開催され、本年度より当センターも委員として加わることになりました。連絡協議会は、自死念慮者や未遂者、ご遺族など、自死にまつわる苦悩を抱える方を、行政や民間団体の枠組みを超えて支えるための組織です。今回の協議会では、近年あらためて問題化している「いじめ」が話題にのぼった他、ワンストップ相談会の運営状況など京都市における活動状況の報告が行われました。

■自死者数、やや減少傾向？

そのなかで印象に残ったのは、今年の自死者数がわずかですが減少しているという報告でした。京都市の場合、警察庁の統計によれば2010年は348人、2011年は314人の方が亡くなっていますが、今年は6月末の段階で94人であり、このまま推移すれば300人を切ると予想されます。

この数字が、何に起因するか、厳密な検証が必要ですし、ただちに京都における自死対策活動の成果といえるかどうかは不明です。また、何より減少したといっても、なお多くの方が命を絶たれている状況に変わりはありません。

■苦悩を抱えながらそれでも…

人が、苦悩を抱えながらも、それでも「生きよう」と思える社会はどのようなものでしょう。思い返せば、私がこうした活動に関心をもったきっかけは、私自身が感じている「生きづらさ」を日々の生活のなかでどう折り合いをつければよいかという切実な思いが根底にあったように思われます。当センターでは、苦悩を苦悩のままに受け取ることが、結果的に「生きるチカラ」を取り戻すことができるという信念で活動を進めています。ぜひ今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

（副代表 野呂 靖）



「被災者」と「支援者」

被災地支援団体の集まりに参加してきた。

会場では、さまざまな団体から、支援活動の現状や、これからの支援についての意見が取り交わされた。

中心的な話題は、震災や東北への関心が薄れてきているためか、ボランティアの数が減ってきているということ。そのため、ニーズにきちんと合った支援に力を投入する必要があるということであった。

なかでも印象に残ったことは、物資が溢れている仮設では、モノを大切にせず、すぐに捨ててしまったり、モノをもらっても感謝の言葉が出て来なくなったという支援者からの声だった。

そこから出された結論は、仮設の居住者を「被災者扱い」することは、自立支援に繋がらず、むしろ仮設住宅という環境は、社会からの自発的な隔離を促しているということであった。

仮設の居住者のことを「被災者」とは呼ばず、「仮設にお住まいの方」という表現で呼ぶ風潮についても言及があった。いつまでも「被災者」として特別視しない、同じ社会の一員として接しようという姿勢が窺える。しかし、そうであるなら、「支援者」もまた、自分自身の呼ばれ方について、同じく自覚的になる時期に来ているのではないだろうか。

いずれにしても、そうした「被災者」「支援者」の線引き以前に、いま目の前にいらっしゃる「ひとり」との繋がりを大切にしていきたい。

(ボランティア2期生 A.C.)

今月のことば

残された人は何よりも、自分が泣き出しても、
あなたが逃げ出したりしないと知って安心することが必要なのです。

(キャロル・シュトータッシャー著『悲しみを越えて - 愛する人の死から立ち直るために -』創元社)

活動報告

- 8月期電話相談件数…169件 (よりそいホットライン担当 60件を含む)
※担当相談員延べ 64名
- 相談活動委員会
グループ研修 8月6日(月) 10名
8月16日(木) 10名
- グリーフサポート委員会
語りあう会 8月9日(木) スタッフ参加数 5名、参加者 1名



寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同) 2012年8月1日～8月31日

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	喜多愛子
株式会社エクザム	匿名
落合隆治	武田慶之
葛野洋明	小林秀明
源照寺	野村顕祥
前橋市・清光寺(高橋審也)	藤原克憲
街頭種でのご協力いただきました皆様	

● 支援方法

賛助会員 年間1口 3,000円
寄 付 金額は問いません
法人会員 年間1口 10,000円

● 会費・寄付金振り込み先

郵貯間 ゆうちょ銀行 [振替口座] 00950-0-271875
他行間 ゆうちょ銀行 [当座] ^{ゼロキョクキョク} 〇九九店 0271875

【お詫びと訂正】 Sotto (Vol.17 8月号) の記載に誤りがありました。

ここに訂正してお詫び申し上げます。

訂正箇所：2ページ目冒頭 警視庁× → 警察庁○

Sotto コメント

京都も少し涼しくなってきました。秋らしい白雲と澄みきった青空とのコントラストがとてもキレイで、ついついバスの車窓から見惚れてしまいます。この美しい季節がいつまでも続くといいのに…。

(N.Y.)

発行 2012年9月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
Email so-dan@kyoto-jsc.jp